

会派視察・研修報告書

会派名 新生自民

代表者名 林 美行

1 日 に ち	令和6年11月12日（火）
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	静岡市 東静岡アート&スポーツ／ヒロバ
3 参 加 者	林美行、葉狩拓也、亀井芳樹、獅子野真人
4 調査・研修の テーマ	アーバンスポーツの普及・振興について
5 主な内容	1.施設設立の経緯や背景はどのようなか。 2.地域のスポーツ団体や学校との連携状況はどのようなか。 3.地域社会や周辺の環境との調和をどのように図っているのか。 4.今後の展望や拡張計画があれば、それはどのようなか。 5.初期の住民、議員の理解はどのようなであったか。また現在はどうなのか。 6.建設予算はどの程度であったか。また国県との負担割合はどのようなであったか。
6 所感、提言事項、課題等	【亀井芳樹】 JR東海道線「東静岡」駅北口に、2017年5月13日に開業した「東静岡アート&スポーツ／ヒロバ」を視察しました。同施設は2万4,000㎡の敷地において、ローラースポーツパーク、芝生広場、駐車場兼イベントスペースから構成されています。 そもそもは、旧国鉄時代の貨物場跡地の区画整理事業による暫定利用として、静岡市が掲げるにぎわいと交流の場づくりである「まちは劇場」プロジェクトの一拠点との位置づけのもと、市の存在価値向上および新たな来街者の増加を目指し、期間限定で開設されたものであり、基盤整備費は約1億3,000万円、施設整備費は約1億2,000万円とのことです。 その中で、スケートボード、BMX、一輪車、インラインスケートなどに対応するのが、「ローラースポーツパーク」である。当初、施設の基本構成案は地元の愛好家などの意見をもとに作成されたとのこと。当パークだけで約7,000㎡の敷地を持つなど空間としてのゆとりもさることながら、季節や天候に左右されずに安定稼動が可能な1,200㎡規模の屋内スペースというのが施設のキーポイントとなったとのことでした。

6 所感、提言事項、課題等	実際の効果としては、同施設の 2023 年の年間利用数は 25,603 人（スケートが 18,000 人弱）であり、オリンピック効果も相まって賑わいを大変創出できており、特に交流人口の創出に寄与しています。また、初心者からプロまで対応できる設備により、市内の小中学生がスポーツに携わるきっかけとなっているのも魅力といえます。 駅前のにぎわい創出の観点から、当市の駅前活性化の選択肢の一つとして検討可能であると考えます。
	【葉狩 拓也】 東静岡アート&スポーツ／ヒロバは、静岡市駿河区にあるアートとスポーツが融合した複合施設である。JR 東静岡駅から徒歩圏内に位置し、地域住民や観光客が気軽に訪れられる場となっている。 この地域は、土地区画整備事業による基盤整備を行ってきた場所で、当該地は多目的アリーナや新庁舎建設等様々な検討がされる中、事業着手までの暫定措置「賑わいづくりの実験場」として、平成 29 年に整備された。 現在は、静岡市から行政財産目的外使用許可を受けた実行委員会（市、スケートパーク連盟等の関係団体、元大学教授などで構成）が施設整備を行い、民間業者に運営を委託している。 来年にはアリーナやホテルの建設計画が始まるため、現在の施設は移転が予定されているが、官民連携により、アーバンスポーツを通じた地域の魅力発信に成功している先進的な例だと感じた。また現在運営している民間企業が、レストランや 3 X 3 コートを建設し、副次効果を生み出す取組みを率先して行う姿にも感心した。 本市においても、昨年完成した星ヶ台運動公園のスケートボード場の活用等、アーバンスポーツを通じて官民連携で街を盛り上げていく多くの可能性があると感じた。
	【獅子野 真人】 東静岡アート&スポーツ／ヒロバは、旧静岡市と旧清水市の合併後、東静岡駅前の旧国鉄跡地活用策が定まらない中、暫定的な「にぎわいづくりの実験場」として 2017 年 5 月に開設されました。約 24,000 平方メートルの敷地には、芝生広場、ローラースケートパーク（約 7,000 平方メートル）、駐車場などが整備され、基盤整備と施設整備に約 2 億 4,760 万円が投じられました。若者を中心にアート、ホビー、ローラースポーツ等の複合的な展開を目的としており、年間 2 万人を超える来場者を集めています。特にローラースポーツパークはスケートボード利用者が多く、全体の 7～8 割を占めているとのこと。加えて、現在の場所はアリーナ建設が予定されているため移転するとのことでした。 街づくりの中で利益を生み出す施設と福利厚生的な施設の区分け、すみ分けがしっかりされている市政運営だなという印象を受けました。多治見市がこのような施設を整備することは、現実的には困難であると思いますが、星ヶ台に整備した施設を有効活用しながら市内で交流人口を増やすための取組みをしていく必要があると感じました。

6 所感、提言事項、課題等

【林 美行】

東静岡地区は、合併を行った静岡・清水両都心のほぼ中間にあり、旧国鉄東静岡駅跡地などを利用して、土地区画整理事業により都市基盤整備を行いました。当初は合併後の新庁舎の建設地など様々な検討がなされる中、土地の有効活用の観点から、日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化を図り、その玄関口となる東静岡地区を「文化力の拠点」とし、平成 26 年度に「東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議」を設置、「“ふじのくに”の『文化力』を活かした地域づくり基本構想」を作成し、その方針に沿い、着実な事業の振興がなされました。

この地域には、県立大学や静岡大学をはじめとする多くの高等教育機関が集積し、高等教育機関の学生数は、約 1 万 7 千人と、県内学生数の 4 割以上を占め、また、県内留学生の 4 割以上がこの地域で学んでいるという特色を活かしつつ、大学間や地域との連携を深め、高等教育機関全体の教育力向上と地域への貢献を目指す「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」も同時期に設置され、大学間等の連携・交流の場となる拠点の形成についても検討されました。

これらの土地区画整理事業という機会を活用し、ビジョンを明らかにし、持続的に取り組んでおられることに感心するとともに、方針の大きな構想が変更された多治見市の事業展開と比較して複雑な思いを持ちました。

視察した事業「東静岡アート&スポーツ／ヒロバ」については、中心市街地の拠点に、アーバンスポーツを展開することで、世代を超えた多種多様な人々が自由な時間を過ごせる芝生広場やローラースポーツ等を楽しめる多目的アリーナを整備し、楽しみを求めて多くの人が集まり、その結果にぎわいのある街が、時間と共に充実していくという事例を見ることができ、合理的にデザインされたまちづくりが、世代を超えた市民参加の中で進んでいることを確認しました。やはり、自由に人が集まる楽しい事業が中心市街地には欲しいなと思いました。

7 写 真 等
※視察の場合は必須、研
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。